

# 親子で楽しむロボット作り教室開催

夏休みも終わりが近づく8月26日、27日、大田工業連合会と大田区産業経済部産業振興課は、大田区産業プラザP101階の大展示ホールにて、親子でモノづくりを楽しむ「ロボット作り教室」を開催した。大田区在住在学の小学1年生から4年生が対象で、保護者同伴で各回約100組200名、合計約400名が参加した。26日朝の教室開催にあたり、当会の広瀬安宏会長は「みなさんはプラモデルを作ったことがありますか。

モノを作る楽しみや喜びを完成した時に味わってもらえると思えます。今日は夏休みの思い出の1ページになるよう、お父さん、お母さんと頑張つてロボットを作つて欲しいです」とあいさつした。参加者は10班に分かれて作業した。今回作るロボットは、芝浦工業大学の事業法人である(株)エスアイテックが教材として製造・販売する二足歩行ロボット「ステッピー」。同社が講師を務め、

解説したほか、各班に指導員がついてサポートした。西川恭子事務局長は「長丁場になりますが、スタッフの方々が必ず最後まで仕上がるように応援してくれるので、安心して取り組んでください」と呼びかけた。



綱渡りに成功



親子でロボット作りに集中

教材は組み立て式のギアボックスや、2チャンネルリモコンボックス、ロボット本体(筐体)で構成する。まずはギアボックスの製作からスタート。親子は説明書とにらめっこしつつ、慎重にパーツを組み立てた。ねじを締め、グリスを塗るなど細かい手作業に集中した。リモコンボックスの組み立てでは配線が絡まらないよう穴に通すことが難しい様子だった。

夏休みの時間、子供たちは会場の後ろに展示しているロボットの完成品見本を観察・操作して楽しんだ。午後は、午前の残りの作業を行い、最後に本体を組み立てて完成させた。ロボットに羽をつけるなど飾りつけをする子もいた。終わった人から会場後ろの競技スペースにロボットを持って行き、操作して動作を確認。倒れたりうまく歩けなかったりするとまた作業テーブルに戻り部品を調整し

た。スマートに歩けるようになると、ロボット同士を「バトル」させる姿もみられた。ステッピーは二足歩行だけでなく、綱渡りもできる。腕をゆっくりとロープにひっかけ、綱を渡ると親子の歓声があがった。小学2年生の男の子は「何回もやり直してできた」と満足そうな表情をみせた。

次世代にモノづくりの魅力を実感してもらうための同イベント。子供たちにとって、「どうやったらかうまくいくか」と試行錯誤しながら手を動かす、貴重な体験となった。